

慶應義塾大学看護医療学部・大学院健康マネジメント研究科
新型コロナウイルス感染予防のためのキャンパスにおける行動指針

2020年3月24日版

看護医療学部長 武田 祐子

健康マネジメント研究科委員長 武林 亨

新型コロナウイルス感染予防のため、看護医療学部・健康マネジメント研究科在学生における湘南藤沢キャンパス、信濃町キャンパスでの行動指針を以下のように定めます。本指針に則り行動するよう各自努めてください。

いずれのキャンパスについても、以下の点に留意すること。

1. 感染症予防のスタンダードプリコーション（標準的予防措置）の考え方に則り、日常においても、とくに、手指衛生、個人防護用具（マスク）、環境管理に留意すること。また、毎日必ず検温し、37.5度以上認めた場合は、登校をしないこと。
（添付の【感染制御部資料】【授業出席における感染予防行動】を参考にする。）
2. 課外での活動やイベントへの参加についても、慶應義塾全体の方針を確認するとともに、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の報告を踏まえて、自律的に行動すること。
（添付の【新型コロナウイルス感染症対策専門家会議資料】を参考にする。）
3. 外国から帰国（入国）した者は、いずれの国であっても、2週間は、厳重な健康観察(毎日の検温と症状観察)をして自宅待機すること。
4. 国外渡航については、4月末日まで原則禁止とする。

特に信濃町キャンパスにおいては、以下の点にも留意すること。

5. 教育施設とともに、高度医療を担う大学病院があることに鑑み、以下「信濃町キャンパスへの立ち入りについて」に則り、慎重に行動すること。
6. 病院長から発出される「信濃町キャンパスにおける新型コロナウイルスに関する対応」の最新版を常に確認し、その指示に従って行動すること。3月18日版の概要（一部修正）は以下の通り。

信濃町キャンパスへの立ち入りについて

以下、ア)～ウ)に該当する場合は信濃町キャンパスへの立入は禁止。

ア) 3月18日以降、外国から帰国（入国）した者

※3月17日以前に、外国から帰国（入国）した者も、2週間、厳重な健康観察(毎日の検温と症状観察)をして自宅待機すること。

イ) 感染者と必要な感染予防策なしで接触した者

（マスクを着用しない環境下で同居家族など感染者と接触があった場合等）

ウ) 37.5度以上の発熱を伴う感冒症状を認める者

ア)・イ) 該当者の取るべき対応

- ・ 看護医療学部事務室と信濃町キャンパス保健管理センターに報告すること。

- ・ 帰国後または最終接触後 2 週間は、嚴重な健康観察(毎日の検温と症状観察)をして自宅待機すること。
- ・ 発熱(37.5℃以上)や呼吸器症状(咳、呼吸困難等)が出現せず、2 週間の自宅待機が終了した場合、保健管理センターで面接の上、許可を得てから講義や実習に参加すること。
- ・ 自宅待機中、発熱(37.5℃以上)や呼吸器症状(咳、呼吸困難等)が出現した場合は、速やかに、保健管理センターに報告すること。

ウ) 該当者の取るべき対応

- ・ 看護医療学部事務室と信濃町キャンパス保健管理センターに報告し、指示を仰ぐ。
- ・ 自宅待機中は、毎日の検温と症状の観察をすること。
- ・ 症状が長引く場合は、保健管理センターに相談すること。
- ・ 解熱鎮痛剤などを使用せずに解熱(37.0℃未満)後 48 時間経過した場合、保健管理センターで面接の上、許可を得てから講義や実習に参加すること (インフルエンザと同等)。
- ・ その後も、2 週間手洗いとマスク着用を徹底し、同期間は他者との飲食を伴う会合は避けること。
- ・ なお、学内での検温を希望する際は、保健管理センター前に臨時設置した体温計を利用し、発熱を伴う場合は、保健管理センターに事前連絡の上、指示を仰ぐこと。

なお、復学後、2 週間は、嚴重な健康観察 (毎日の検温と症状観察) に努め、同期間手洗いとマスク着用を徹底し、他者との会食は避けること。

【参考】4月1日以降、医学部4, 5年生の臨床実習においては、以下の対応が予定されている。

慶應義塾大学病院内で実習を行う場合

4年生、5年生は、毎日、体温と体調(感冒様症状)をメールフォームでつけることを義務づける。さらに、毎日の臨床実習開始時に、臨床実習担当者が、体調を再確認して、臨床実習をスタートする。

マスクの適応と使用上の注意

マスクの在庫がかなり厳しい状況です。適正に使用してCOVID-19対策をお願いします
マスクは汚染したら廃棄するのが基本です。

【通常の医療現場で使用するマスク】

- 適 応：感染患者・咳などの症状がある患者と直接接する人
飛沫が発生する医療行為を実施する時
- ポイント：飛沫を浴びた時は、1回ごとに、マスク表面に触れずに廃棄する。
状況に応じて紐タイプを使用する
- 適 応：症状のある本人（咳エチケット）
- ポイント：呼吸苦がなければ、他の人と接する際に着用する。
- 適 応：免疫抑制にある患者が人混みに行く時
- ポイント：症状のある人と接する可能性を考慮して着用する。

【今回の教職員全員がマスク着用することの対策】

- 適 応：自分が発症した場合、発症前から感染源になるので、他者へ感染
するリスクや影響（教職員が患者に感染させる。複数の教職員が
同時に休むなど）を低減させることが目的。
自分に症状がなくかつ症状がない患者と接する教職員や、
複数の教職員が集合する際（会議など）も着用する。
- ポイント：マスク内側を中にしてたんで、再利用してもよい

マスクに触る前・触った後は手指衛生を実施しないと感染します！

感染制御部

自分の身の守り方

スタンダードプリコーションにのっとり、自分の身を守ることで、他者への感染を拡大しないという考え方です。まず自分の身を守りましょう。

- ・通勤時のマスク着用よりも自分の顔に触れないことが効果的です。
- ・当院では、同時に複数の職員が「濃厚接触者」となって自宅待機（体調は悪くないのに）になることを避けるため全員にマスクしていただいています。
- ・院外では、不特定多数の人と換気が悪い部屋で、長時間同席することは避けましょう。たとえば、立食パーティー、ロックコンサート、カラオケなど。
- ・公園で遊ぶ、散歩するなど、室外で人との距離感が確保できる状況は問題ありません。手指衛生だけ注意しましょう。
- ・換気のための窓の開放は、空調設備が整っていない場合のみ有効です。

新型コロナウイルスは、環境や物品を介しての感染より「ヒトとヒト」の直接接触が感染経路です。自身の顔に触れる前に環境に触れた自分自身の手をこまめに手指衛生すれば、有効な感染予防になります。

感染制御部

マスクは正しくつけましょう

プリーツが伸びている
鼻と口が覆われている
頬に隙間がない



装着中は触らないでね
意味ないヨ!



このようなマスクの着用では意味がありません



必ず手指衛生と
セットで実施



感染制御部

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議

「新型コロナウイルス感染症のクラスター（集団）発生のリスクが高

い日常生活における場面についての考え方」

新型コロナウイルスに対する地域での対策として、クラスター（集団）の発生を防止することが重要です。感染していると知らずに多くの人々と接触することで、感染を拡大してしまう可能性があります。そのため、感染拡大の機会を減らすために、多くの人々が接触するような機会をできるだけ作らないようにする必要があります。

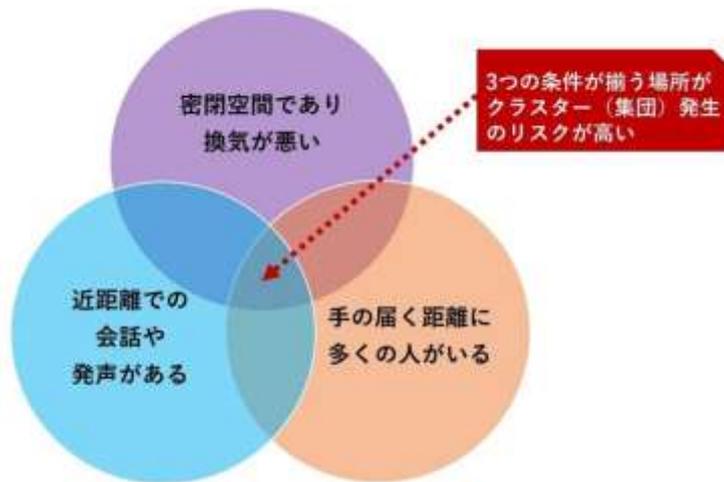
クラスター（集団）の発生のリスクの高い場面では、一人の感染者が多くの感染者を生み出し、それが大きなクラスター（集団）の発生につながる場合があります。海外では多くの人々が集まる行事に伴い大規模なクラスター（集団）の発生が報告されています。

この文章は、新型コロナウイルス厚生労働省対策本部クラスター対策班が分析した内容に基づき、専門家会議がクラスター（集団）の発生の防止に向けて、広く情報を共有することを目的としています。なお、これまでの知見、エビデンスは限られており、感染経路については不明な点も多く、適宜、変更される可能性があります。

これまでクラスター（集団）の発生が確認された場面とその条件

これまで感染が確認された場に共通するのは、①換気の悪い密閉空間、②人が密集していた、③ 近距離での会話や発声が行われたという 3 つの条件が同時に重なった場です。こうした場ではより多くの人々が感染していたと考えられます。

これら 3 つの条件がすべて重ならないまでも 1 つないし 2 つの条件があれば、なにかのきっかけに 3 つの条件が揃うことがあります。例えば、満員電車では、①と②がありますが③はあまりなされません。しかし、場合によっては③が重なることがあります。また、一連の活動のなかで多くの時間は 3 つ条件が揃わなくても、あるときにはそうした機会があることがあります。例えば通常の野外スポーツをしている際には 3 つの条件は揃いませんが、着替えやミーティングにおいては①から③の条件が重なることがあります。そのため、3 つの条件ができるだけ同時に重ならないようにすることが対策となります。



また、上記の条件の他に、共用の物品を使用していたという場面もあります。こうした状況では接触感染がおこる場合があります。

これまで、換気の悪い閉鎖空間で人が近距離で会話や発語を続ける環境、例えば、屋形船、スポーツジム、ライブハウス、展示商談会、懇親会等での発生が疑われるクラスターの発生が報告されています。

なお、不特定多数が参加するイベントは、感染拡大のリスクが高いだけでなく、クラスターが発生したときに感染源の特定、接触者調査が困難となり、クラスターの連鎖につながるリスクが増します。イベントの特徴に応じて可能な場合には、主催者があらかじめ参加者を把握できているほうが感染拡大のリスクを下げることができます。

クラスター（集団）の発生のリスクを下げるための3つの原則

1. 換気を励行する：窓のある環境では、可能であれば2方向の窓を同時に開け、換気を励行します。ただ、どの程度の換気が十分であるかの確立したエビデンスはまだ十分にありません。
2. 人の密度を下げる：人が多く集まる場合には、会場の広さを確保し、お互いの距離を1-2メートル程度あけるなどして、人の密度を減らす。
3. 近距離での会話や発声、高唱を避ける：周囲の人が近距離で発声するような場を避けてください。やむを得ず近距離での会話が必要な場合には、自分から飛沫を飛ばさないよう、咳エチケットの要領でマスクを装着するかします。

これらに加えて、こまめな手指衛生と咳エチケットの徹底、共用品を使わないことや使う場合の十分な消毒は、感染予防の観点から強く推奨されます。

【授業出席における感染予防行動】

自分が感染しないための行動はもっとも大切ですが、症状の有無にかかわらず自身が感染している可能性を考え、周囲に拡散しないように努めましょう。

感染が発覚した場合、マスク着用なく人との接触があった場合、その人も濃厚接触者と見なされ症状の有無にかかわらず自宅待機となります。複数名の感染が確認された場合には、授業停止・クラス閉鎖の可能性もあります。

複数名が集合する教室では、マスク着用が原則ですが、飲食時はマスクを外すので一層の注意が必要です。

<授業を受ける前に>

- ・ 毎日体温測定し、咳や体のだるさ、息苦しさなどの症状の有無を確認する。37.5度以上発熱がある場合は登校しない。その他症状がある場合は、教員に申し出て相談する。
- ・ キャンパス内では原則としてマスクを着用する。マスク入手ができない場合は、飛沫を防ぐことができる手作りマスクなどで口・鼻を覆う。（大学からマスクの配布はない）

<授業中>

- ・ 可能な場合は席を離れて着席し、授業開始前後の会話は最小限に控える。
- ・ 教室内の換気に努める。可能な場合は窓を2か所以上開放する。窓の開放に適さない気温の場合でも、1回/1時間を目安に換気を行う。
- ・ 発言しない場合、マスク着用は不要であるが、顔に触れないように注意する。
- ・ 授業中の飲食は禁止する（昼食は休憩時間中にとる）。

<休憩時>

- ・ 休憩中も会話時はマスクを外さない。
- ・ 飲食前は手指衛生を行い、対面での着席を避け、飛沫を防ぐため会話は控える。他者が素手で触れたものは食べない。
- ・ スマホを操作しながら飲食はしない。

以上